

第5回 Happiness Meeting 報告

主任 渡部博志



Web 上での Happiness Meeting▲

2020 年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、それまでの日常と大きく異なる日々を送ることになりました。研究教育活動の現場にも否応なしに影響が及び、しあわせ研究所の諸活動においても様々な形での変更が余儀なくされました。

毎年開催している Happiness Meeting も、これまでと異なる形で実施することになったことの一つです。第2回以降、夏に実施してきた催しですが、新年度当初は授業のオンライン化に対応する必要があったり、また社会全般に新型コロナウイルスへ対応していく必要性に迫られたりと、慣れない日々を送る中で夏の開催は見送り、同時に新たな形態での Happiness Meeting の開催を模索することになりました。

検討を重ねた結果、第5回となります Happiness Meeting 2020 は、11月30日から12月4日までの1週間、毎日昼休みの時間に Web 上での開催となりました。これまで是有明キャンパスに一堂に会して、しあわせ研究費の助成を受けた各研究課題の研究

員から「世界のしあわせをカタチにすること」にどのように結びつくのかをポスター発表形式で分かりやすくお話しいただき、軽食も交えた研究員同士の交流の場としていましたが、食事をとりながら直接対面で研究員同士が話をすることは感染拡大防止の観点からできないこともあり、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いることで各ルームにて研究課題の説明と質疑応答がそれぞれに行われる形となりました。

初のオンライン開催の試みのため不安は尽きなかったものの、5日間の開催期間中、86名（延べ人数では144名）にご参加いただきました。オンライン開催となったことでの限界もありますが、前向きに捉えれば、これまでは開催日に所用があり都合がつかなかった方も5日間の開催となったことで参加しやすくなった点や、有明キャンパスに勤務する教職員以外の方々も参加しやすくなった点は、これまでの開催形態では得られなかったメリットでした。特に、学生の参加者が多かった点は、「しあわせ研究」を広める上で非常に重要であったと考えられます。

今年度も研究者相互の交流の場を設け、「しあわせ研究を止めない」というカタチが作られたことを、しあわせ研究所に関係するみなさまに感謝申し上げます。